

4. 打ちこわし

4. 独占権を認めることで商品の価格を大幅に下げさせ、都市に住む人々の生活を安定させるため

4. 寛政の改革 → 天保の改革 →
大塩平八郎の乱 → ええじゃないか

4. 賀茂真淵はオランダ語を学んで『解体新書』を出版し、本居宣長は仏教の教えをもとに国学を大成した。

4. 陽明学

4. 朝廷との結びつきが強い公家出身の大名を、地方の開拓を進めるために東北や九州に配置した。

4. 親藩

4. 外様大名

4. 外国船の来航による軍事的脅威に対抗するため、西洋の軍事技術の導入と開国を目指した。

4. オランダ人が日本の生活習慣を完全に受け入れ、出島以外での居住も許可されていたから。

4. ヨーロッパ諸国の中ではオランダのみに貿易を許し、長崎の出島を窓口として幕府の厳しい監視下に置いた

4. 上知令（上地令）

4. 遣明使

答え合わせ・解説

問1	答え 2 百姓一揆	江戸時代、生活が困窮した農民が領主に対して集団で交渉や抗議を行うことを百姓一揆と呼びます。1603年から幕末までの統計を見ると、17世紀は比較的少なかったものの、天明の飢饉（18世紀後半）や天保の飢饉（19世紀前半）といった大規模な飢饉が発生した時期に発生件数が突出して多くなる傾向があります。都市部で米の買い占めなどに対して行われる「打ちこわし」とは、発生の場所や形態が異なります。
問2	答え 2 商人に特権を与える代わりに、運上や冥加などの税を納めさせて幕府の財政収入を増やすため	幕府は、都市の発展や全国的な流通網の整備によって成長した商人の力を利用しようとした。株仲間に営業の独占権（営業独占権）を与える見返りとして、運上（うんじょう）や冥加（みょうが）という税を徴収し、財政の安定を図ったのが主な目的です。田沼意次の時代には、この方針が積極的に推し進められました。なお、株仲間の結成は流通を安定させる側面もありましたが、結果として商品の価格が上がる原因にもなったため、後の天保の改革では一時的に解散を命じられることになります。
問3	答え 1 寛政の改革 → 大塩平八郎の乱 → 天保の改革 → ええじゃないか	寛政の改革は18世紀末（1787年～）に松平定信によって行われました。その後、19世紀に入り1837年に大塩平八郎の乱が起き、その混乱や飢饉への対応として1841年から水野忠邦による天保の改革が始まりました。「ええじゃないか」は幕末の混乱期である1867年頃に民衆の間で流行した現象であり、これらが最も適切な時系列となります。
問4	答え 1 本居宣長は『古事記伝』を著して国学を大成し、杉田玄白らはオランダ語の医学書を翻訳して蘭学の発展に貢献した。	外来思想の影響を受ける前の日本古来の精神を解明する国学は、本居宣長が『古事記伝』を著したことで大成されました。一方、オランダ語を通じて西洋の学問を研究する蘭学は、杉田玄白らがオランダ語の解剖書を翻訳して『解体新書』を刊行したことなどを機に大きく広まりました。
問5	答え 3 朱子学	朱子学は、君臣の別や父子の親しみといった「身分秩序」を重んじる学問です。幕府による支配体制を維持・正当化するために非常に適した教えであったため、江戸幕府によって公認の学問とされました。
問6	答え 2 関ヶ原の戦い以降に服従した外様大名を、軍事的な脅威となるのを防ぐために江戸から遠い地域に配置した。	幕府は江戸に近い要地や軍事上の重要な拠点には、信頼の厚い「親藩」や「譜代大名」を配置しました。一方で、かつて徳川氏と敵対したり、戦い直前まで中立だったりした「外様大名」は、経済力や軍事力が大きかったため、江戸から物理的な距離を置くことで幕府への反乱を抑え込もうとしました。このため、薩摩の島津氏や長州の毛利氏などは日本の端にあたる地域を領地とされました。
問7	答え 2 外様大名	徳川氏は大名を、将軍家の一族である「親藩」、関ヶ原の戦い以前から従っていた「譜代大名」、そして関ヶ原の戦い以降に従った「外様大名」の3種類に分類しました。外様大名は前田氏や島津氏など、広大な領地を持つ有力な大名が多かったため、幕府は特に注意を払って統制を行いました。
問8	答え 4 外様大名	徳川家康は江戸幕府を開く際、大名を徳川氏との親疎の度合いによって3種類に分けました。関ヶ原の戦いの時期から従った大名は「外様大名」と呼ばれ、有力な勢力が多かったため、幕府は反乱を未然に防ぐ目的で、政治の中心地である江戸や近畿圏から遠ざける配置をとりました。
問9	答え 3 幕府の財政難や農村の荒廃に対処するため、財政の再建と支配体制の立て直しを目指した。	江戸時代の三大改革（享保・寛政・天保）は、いずれも貨幣経済の浸透による武士の困窮や、冷害などの災害による農村の荒廃、それに伴う幕府財政の悪化という共通の課題に直面していました。そのため、支出の抑制（質素儉約）や収入の安定（年貢の確保・増収）を共通の目的として、幕府の権威を再構築しようとしたものです。
問10	答え 3 オランダはキリスト教の布教を行わず、貿易のみを目的としていたから。	当時のヨーロッパ諸国の中で、スペインやポルトガルはカトリックの布教を伴う交易を行っていましたが、プロテスタントの国であるオランダは布教よりも貿易の利益を優先する姿勢を示しました。幕府はキリスト教が幕藩体制を脅かすことを恐れていたため、布教活動を行わないオランダを貿易相手として選び、長崎の出島という限定された場所で厳重な管理のもと交流を続けたのです。
問11	答え 4 ヨーロッパ諸国の中ではオランダのみに貿易を許し、長崎の出島を窓口として幕府の厳しい監視下に置いた	江戸幕府は、島原・天草一揆の後にキリスト教の禁止をさらに徹底するため、1639年にポルトガル船の来航を禁止しました。その後、1641年に平戸のオランダ商館を長崎の出島に移したことで、ヨーロッパ諸国の中ではオランダのみが貿易を継続できる体制が整いました。これにより、貿易の窓口は長崎の出島に一本化され、幕府による厳格な管理・統制が行われるようになりました。
問12	答え 4 上知令（上地令）	江戸や大坂近郊の要地を幕府が直接支配し、財政の安定と軍事的な強化を図る目的で出された。しかし、土地を没収される大名や旗本の激しい反対に遭い、水野忠邦が失脚する直接的な原因となった。
問13	答え 1 朝鮮通信使	豊臣秀吉による朝鮮侵略（文禄・慶長の役）によって悪化した関係を修復するため、徳川家康は対馬藩を介して交渉を行い、国交を回復させました。この使節は将軍の代替わりという幕府の権威を示す重要な機会に招かれ、江戸まで移動する道中では各地の文化交流も行われました。